

技術・家庭科（家庭分野）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00058152

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



技術・家庭科（家庭分野）

橋本 正恵

共同研究者 綿引 伴子（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

（1）本校の研究との関連

本校では、平成 26 年からの 3 年間 ESD に関する教育研究に取り組んだ。ESD に関しては、多くの学校がその実践や研究に臨んでいるが、本校の取り組みの特色は各教科の学習において主に取り組むということである。総合的な学習の時間などで扱われることの多い ESD に、各教科等がそれぞれの学習内容の中で取り組むことを中心として全教科等で取り組んだ。更に、全教科等の学習で取り組むことに加え、それらを教科等横断的に連携させてカリキュラムマネジメントを行ったことも。本校の研究の特色であると言える。

教科等を横断した学習や複数の教科で連携した学習を構築する時、技術・家庭科の役割の特性は、生徒の生活と様々な教科等で学習した内容を結びつけることができることにある。資質・能力の育成に関わって、学んだことを社会で生かす能力の必要性が重視されて久しいが、技術・家庭科はその学習内容そのものが、一人一人の生徒の生活に即したものであるから、その特性をより生かして他教科等の学習内容と各生徒の生活の橋渡しとなることができる。

技術・家庭科の各学習内容は、生徒の生活そのものを扱う学習であり、各教科等で学習した内容が現在や将来の生活と関わっていく中継ぎとなる。そのような教科の特性を生かして、技術・家庭科の学習では常に個々の生徒の生活の中にある課題や疑問を見取り、その解決に向けて思考をすることをねらった題材計画を工夫していくことを重視している。

以上のような本校の研究の方法や体制と教科の特性を踏まえ、技術・家庭科家庭分野は、学校全体のカリキュラムマネジメントがより円滑にすすめられるよう、様々な教科等を結びつける要となることができると考えている。また、学校で獲得した知識や技能、その他の様々な能力が生徒の生活の中で活用される際の仲介の役割を果たしたいと考えている。

（2）新学習指導要領に向けて

これまで、家庭分野の学習では、特に衣食住に関する学習において、和食や和服、和の住まいなどについて扱ってきており、伝統文化教育に関しての実践は以前より取り組まれてきた。

新学習指導要領では、技術・家庭科（家庭分野）の目標について、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」としている。そして、その解説には「生活の営みに係る見方・考え方を働かせとは、家庭分野が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することを示したものである。」とある。つまり、家庭分野の学習内容全体に共通する視点の一つとして「生活文化の継承・創造」があげられており、家庭分野の学習と伝統文化教育の関連の深さが分かる。取り扱う題材構成によってどの視点を重視するかを定めることが必要ではあるものの、家庭分野の学習全般にわたって、これまで受け継がれてきた生活文化を創造し伝

えることを意識することが必要であると思われる。

以上のような新学習指導要領の内容を踏まえて、家庭分野の学習では以下の二点を意識している。

- ・家庭分野の全ての学習において、生活文化の継承・創造の視点を意識する。
- ・特に衣食住に関わる題材において、これまで継承されてきた生活文化と自分の生活との関連に気付き、よりよい生活について考えようとする態度の育成を目指す。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

前述の通り、家庭科の学習の目標は、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること」である。伝統文化教育に取り組むにあたっては、まずは衣食住に係る生活事象を、生活文化の継承・創造の視点で捉えることを基盤にして学習を構成した。また「協力・協働」の視点で生活事象を捉えることも教科としての目標であり、このことを踏まえて、学校全体で育成する資質・能力①～③との家庭科の学習との関連を以下のように捉えて実践を計画している。

- ① 日本の伝統や文化に関する理解 →日本の生活文化を継承する視点で学習内容を捉える。
- ② 伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
→ 協力・協働の視点で学習内容を捉える。
- ③ 文化の伝承・創造への主体性など →日本の生活文化を継承・創造する視点で学習内容を捉える。

一年生5月に行った食事の役割に関する学習（実践事例 p 104）では、6つの食事の役割についての理解をした後、日本での食事のマナーについて生徒自身の生活を踏まえて考えた。学習のまとめの部分では、それぞれの生徒が、受け継がれてきた文化を踏まえて、自分自身の生活をどのように工夫したらよいか、ということ考えた。①日本の伝統や文化に関する理解を踏まえて、③文化の伝承・創造への主体性などの育成をねらった授業である。

一年生10月に行った衣生活に関する学習（実践事例 p 105）では、和服の着用を取り入れ、生徒一人一人が生活の中で、どのように衣服を選択するのかについて考える学習とした。先述の実践同様に、「①日本の伝統や文化に関する理解」を踏まえて、「③文化の伝承・創造への主体性」の育成をねらった。衣服のはたらき（社会生活上のはたらき・保健衛生上のはたらき・生活活動上のはたらき）を踏まえて、日常の生活の中で、和服を着用する機会が少ないのはなぜかについて考えを持った。衣服の構成や、和服の着用について理解を深め、これからの生活で、和服をどのように活用すればよいか、各自が考えを深められる題材を設定した。着用する前には、和服について「めんどくさい」「動きにくい」「着ていく場所がない」などの意見が多く見られたが、実際に自分の手で着用をすることで、「意外と簡単に着られた」「リラックスできる」「花火大会に着ていきたい」など、積極的に和服の着用の場面を考える姿が見られた。このよう生徒の様子より、「③文化の伝承・創造への主体性」が育まれたものと考えている。

これらの実践のように、生活の中にある日本の伝統的な文化に関する理解を深め、自分自身の生活にどのように取り入れたり、継承していったりするのかについて考えることは、家庭科の学習において、取り入れやすい学習の流れと言える。

(2) 関連・連携を図った教科等について

家庭科の学習は一人一人の生徒の生活を中心としたものであり、他教科等の学習と生徒の生活とを結びつけることができることが、教科の特性であると考えている。ESD研究の実践を生かして、学校での学習を生活で生かすために、より多くの教科等をつなぐ役割を担いたいと考えている。

前述の実践（実践事例 p 90）では、社会・英語の学習と関連を図りたいと考えた。社会の地理分野の学習では、地域ごとの食文化について学習をしている。今回の実践では、家庭科では、特に日本の食文化に関する学習を重点的に行い、異文化に関する理解は、社会の学習で習得されることを期待した。昨年度の同様の授業では、異文化との比較に関する内容も含めて学習を行ったが、今年度は、技術・家庭科（家庭分野）で重点的に扱う内容により重点を置いた実践とした。このように、他教科等と連携することで、技術・家庭科（家庭分野）で扱うべき内容の精選をすることができ、さらなる連携をすすめることで、学習計画の改善につなげることができると考えている。

3. 成果と課題

今年度の実践について、先述の「1. 伝統文化教育を進めるに当たって」の「(1) 本校の研究との関連」で挙げた2つの目指すところに沿って、今年度の実践を振り返る。

① 教科等の連携を取り持つ学習となることを目指す。

各教科等が伝統文化に関わって計画する実践に関して、その都度、家庭分野の授業での連携の可能性を考えた。昨年度の実践と同様に、英語や社会などの教科とは連携した授業を構築することができた。また、それ以外にも家庭分野の授業について検討をする時には、常に他教科等との関連がないか、連携の可能性はないか等、常に意識をして題材を計画することができた。これまでの課題として、意識をしてきていた複数の教科等を結びつける要となることに関しては、今年度も、複数の教科が連携して一つの題材の学習に当たる教材の開発を試みた。実践事例（p 133）は、三年生の国語と理科、家庭分野が連携して昨年度、開発した題材である。「日本人の暮らしと自然の関り」をテーマとして学習を構築した。昨年度に続き、家庭分野では、これまでの住生活の学習の中の伝統的な日本の住居に関する学習に関して、国語・理科と連携して取り組むことで、生徒の興味・関心が高まる結果が得られた。

他教科と連携することで、教科の学習に関する興味・関心が高まったり、理解が深まったりしたと思われる例。

社会と地域は違う食材のつくりかを知り、家庭での食材とつくりかを知ることができた。伝統的なつくりかを知ることができた。伝統的なつくりかを知ることができた。

「伝統的」であるという事実だけでなく「なぜ」であるのかを学ぶことがより深くなると思った。

科目がつながることで、互いの理由・原因がわかるようになった。(例) 家庭の保存食品と理科の食料と社会の文化。

社会や理科で習った調理の保存食は家庭で使っているから、もっと理解しているのだから深く考えることができた。

② 教科等で学んだことと生徒の生活とを結ぶ役割を担う。

授業で伝統文化を扱うに当たって、各学習の導入部分では常に一人一人の生徒の経験や生活を踏まえることを大切にしている。それぞれの生徒は、各自が異なった生活文化を持っているが、その中に潜んでいる日本の伝統文化に改めて目を向けることから始め、教科の学習を経た後にその知識や技能を生活の中で活用できる仕組みを意識して学習計画を行っている。昨年度は、各生徒の生活の中の伝統文化に目を向けることに関しては、多くの生徒が達成できていた。このことは、「学校全体で育成する資質・能力の①日本の伝統や文化に関する理解」の育成につながっている。一方、将来の生活も視野に入れ、どのように伝統文化と関わっていくかについてや、伝統文化を継承・発展させていく担い手として、どのように生活を創造するのか、といったことについて考えることが課題として残った。今年度は、この点について、特に意識をして題材の開発に当たった。「学校全体で育成する資質・能力③文化の伝承・創造への主体性など」の育成を特にねらって、学習を構成した。文化を継承していく主体性が育まれた様子が生徒アンケートの記述などから読み取ることができた。

学校全体で育成する資質・能力③文化の伝承・創造への主体性などの変容が見られた記述の例

昔から受けつがれた調理方法などを知り、今の技術でいる保存料や甘味料、香料を使わずに長持ちしたり、おいしくたりする食品を生み出し、今まで残っていたという文化が「ずこ」に考えるようになりました。

伝統に関しては関心があるようになった。伝統を残していきたいと思うようになった。色々な人に伝統文化の良さや、加賀野菜（とくに五郎島金時!!）への愛を語った。
 家族とよく伝統についての話をするようになった。
 ▶母が料理によくつかっているようになった。
 日本の伝統文化って良いなと1人きりいる時に考えたことがある。伝統文化を見つけるのが得意になった。

伝統文化は昔から形がいろいろ変りながらも、原形をたもていよと思った。
 醤油→醤油ソフワリ〜とか

保存食に興味を持った。
 昔の人たちの生活、今の私生活全然違うため、そこからたくさんことを学ぶことができ、今の生活をよりよくすることができると思うようになった。
 (軌跡をせたり)してみたいけれど、できていない。

今年度は、より多くの教科と連携した学習の実践を持つことができた。資質・能力の育成をねらって、年間指導計画を改善し続けることや、他教科等との効果的な連携を検討することは、伝統文化教育を中心とするか否かに関わらず重要なことである。家庭科の学習は、学校での学びと生徒個人の生活とを結びつなげるものものであることを生かして、よりよい学習・授業の開発に当たりたい。

実践記録

家庭 1 年

授業者 橋本 正恵		授業日 5月 10日(木)		
授業クラス	1年 1～4組	関係・連携の考えられる教科等 社会・英語		
授業内容 ○食事の役割に関する学習の発展的な学習内容です ○日本の食事作法について知るとともに、今後自分がどのようにその文化を伝承・創造していくのかを考えます。				
教科等で身に付けたい力（本時について） 知識：食事が果たす役割について理解する。 関心：毎日の食生活に関心を持つ。		育成したい資質・能力 ①日本の伝統や文化に関する理解 ③文化の伝承・創造への主体性など		
授業のポイント・流れ				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 35%; vertical-align: top;"> <p>題材計画（全8時間）</p> <p>1次</p> <p>1：食事の役割（6つの役割）</p> <p>2：食事の役割（食事の作法） （本時）</p> <p>3：食事点検</p> <p>2次</p> <p>1：食品に含まれる栄養素</p> <p>2：6つの基礎食品群</p> <p>3：食品群別摂取量のめやす</p> <p>4：食品の概量</p> <p>5：一日分の献立作成</p> </td> <td style="width: 65%; vertical-align: top;"> <p>前時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇宙飛行士の若田光一さんが宇宙食について紹介した動画を視聴し、食事は栄養摂取のためだけではないことを確認する。他国のクルーと会話を楽しんだり、互いの国の食事を紹介したりしている場面など。 <p>本時の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 6つの食事の役割について確認する。 食事のイラスト「孤食」と「共食」を提示し、それぞれの良さ・理由について考える。1孤食にもそれなりの理由があることをおさえるのがミソです。 普段の生活にある「日本の食事作法」について考える。 「和食の配膳の仕方」について確認をする。 近年は特に、必ずしも守られていない場面があることを知る。1ここポイントです！！ これからの生活について考える。 <p><u>自分の生活と照らし合わせて、どのように文化を継承したり、形を変えたりしていくのかを考える。</u></p> </td> </tr> </table>			<p>題材計画（全8時間）</p> <p>1次</p> <p>1：食事の役割（6つの役割）</p> <p>2：食事の役割（食事の作法） （本時）</p> <p>3：食事点検</p> <p>2次</p> <p>1：食品に含まれる栄養素</p> <p>2：6つの基礎食品群</p> <p>3：食品群別摂取量のめやす</p> <p>4：食品の概量</p> <p>5：一日分の献立作成</p>	<p>前時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇宙飛行士の若田光一さんが宇宙食について紹介した動画を視聴し、食事は栄養摂取のためだけではないことを確認する。他国のクルーと会話を楽しんだり、互いの国の食事を紹介したりしている場面など。 <p>本時の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 6つの食事の役割について確認する。 食事のイラスト「孤食」と「共食」を提示し、それぞれの良さ・理由について考える。1孤食にもそれなりの理由があることをおさえるのがミソです。 普段の生活にある「日本の食事作法」について考える。 「和食の配膳の仕方」について確認をする。 近年は特に、必ずしも守られていない場面があることを知る。1ここポイントです！！ これからの生活について考える。 <p><u>自分の生活と照らし合わせて、どのように文化を継承したり、形を変えたりしていくのかを考える。</u></p>
<p>題材計画（全8時間）</p> <p>1次</p> <p>1：食事の役割（6つの役割）</p> <p>2：食事の役割（食事の作法） （本時）</p> <p>3：食事点検</p> <p>2次</p> <p>1：食品に含まれる栄養素</p> <p>2：6つの基礎食品群</p> <p>3：食品群別摂取量のめやす</p> <p>4：食品の概量</p> <p>5：一日分の献立作成</p>	<p>前時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇宙飛行士の若田光一さんが宇宙食について紹介した動画を視聴し、食事は栄養摂取のためだけではないことを確認する。他国のクルーと会話を楽しんだり、互いの国の食事を紹介したりしている場面など。 <p>本時の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 6つの食事の役割について確認する。 食事のイラスト「孤食」と「共食」を提示し、それぞれの良さ・理由について考える。1孤食にもそれなりの理由があることをおさえるのがミソです。 普段の生活にある「日本の食事作法」について考える。 「和食の配膳の仕方」について確認をする。 近年は特に、必ずしも守られていない場面があることを知る。1ここポイントです！！ これからの生活について考える。 <p><u>自分の生活と照らし合わせて、どのように文化を継承したり、形を変えたりしていくのかを考える。</u></p>			

実践事例

家庭 1 年

授業者 橋本 正恵	授業日 11月 8日(木) 1限～ 4限	
授業クラス	1年 1～4組	関係・連携の考えられる教科等 体育・音楽
授業内容 ○不要な衣服を利用して，裂き織の布を製作する。 ○「こきりこ」の踊りに活用できる作品を考える。		
教科等で身に付けたい力（本時について） 知識：布の組織（平織・綾織・編物・不織布）について理解する。 関心：資源や環境に配慮した製作について，関心を持つ。		育成したい資質・能力 ①日本の伝統や文化に関する理解 ③文化の伝承・創造への主体性など
授業のポイント・流れ <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 20px;"> 題材計画 （全8時間 本時2時間目） <衣服の選択と手入れ> 1. 繊維の観察 2. 糸・布の観察 3～4. 本時 裂き織で，織りにトライ 3. 布や衣服の文化 4. 作品の活用 5. 繊維・布の性質 6. 衣服と環境のつながり 7. 衣服と社会のつながり </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> 1 織物と編物の組織について，確認する。 1 1：持ち寄った布（不要な衣服等）で，織りにトライすることを確認する。 2：体育の授業の「こきりこ」の小物として，活用するための製作の計画を立てる。 3：厚紙とタコ糸を使い，織物を作る方法を理解する。 「南部裂き織（青森）」に関する動画をタブレットで視聴。 4：持ち寄った布を裂いて，糸玉を作る。 5：「こきりこ節」や「踊り」について，語らいながら，イメージを広げつつ，作業を行う。 </div> <div style="width: 45%;"> ・日本では，布をはじめとした「もの」を大切にしてきた「生活の工夫」について，理解を深める。 ・自分たちの生活にどのように取り入れられるかを考え，実践につなげる。 </div> </div>		



実践事例

家庭 2 年

授業者 橋本 正恵	授業日 1月 10日(木)	
授業クラス	2年 1～4組	関係・連携の考えられる教科等 社会・数学
授業内容 ○日本の伝統的な行事食であるお雑煮について理解する。 ○自分たちがお雑煮（和食）をどのように継承していくのかについて考える。		
教科等で身に付けたい力（本時について） 知識：様々な行事食について、地域や家庭によって、工夫があることを知る。 工夫：行事食について、自分の生活にどのように取り入れていくのかを考える。		育成したい資質・能力 ①日本の伝統や文化に関する理解 ③文化の伝承・創造への主体性など
授業のポイント・流れ <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p>題材計画（冬休み課題＋1時間）</p> <p><わが家のお雑煮></p> <p>1：「わが家のお雑煮」レポート</p> <p>正月の「お雑煮」について調べてレポートを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく食べるもの ・由来 ・食べない理由 など <p>2：データにまとめよう</p> <p>各自が調べたお雑煮について、全体でデータをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餅の形・加熱方法・具材 <p>今後、どのような雑煮を継承していきたいか。または、していきたくないか。</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>5人グループ×8で活動。</p> <p>1：作成した「わが家のお雑煮レポート」をもとに、相違点を話し合う。</p> <p>2：全体でまとめた項目をあげる。</p> <p>餅の形・加熱方法・だしの材料・具材・調味料・由来 など</p> <p>3：違いはどのようなことから生じるのか考える。</p> <p>社会の学習（地域の特色）が関連しているよ！</p> <p>4：今後、自分自身はどのようにお雑煮を継承していきたいのか、またはしていかないのかについて、考えを持ち、共有する。</p> </div> </div>		

実践事例

家庭 3 年

授業者 橋本 正恵		授業日 10月 29日 (月)
授業クラス	3年 1～4組	関係・連携の考えられる教科等 国語・理科
授業内容 ○住まいの基本的な機能を理解する。 ○和の住まいについて、理解する。		
教科等で身に付けたい力 (本時について) 知識：住まいの働きには、精神的な働きと機能的な働きがあることを知る。 関心：自分や家族の住空間と生活行為とのかわりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。		育成したい資質・能力 ①日本の伝統や文化に関する理解 ③文化の伝承・創造への主体性など (次時で中心により組む)
授業のポイント・流れ		
題材計画 (全2時間) <住まいの工夫> 1：和の住まいを知ろう (本時) 和の住まいの長所・短所について理解する。 (機能的な面・精神的な面) 2：季節の設えを取り入れよう 季節や行事の設えの取り入れ方を考える。		5人グループ×8で活動。 1 これまでの学習「和食」「和服」を振り返る。 思い浮かぶキーワードを10ずつあげる。1共有 2 「和の住まい」と聞いて、思い浮かぶワード10をあげる。例：畳・障子・縁側・床の間・寛ぐ・正座 1共有 3 和の住まい(和室)の例を提示する。 4 和の住まい(和室)の長所・短所を考える。 5 「和の趣」・「和の設え」には、「四季」や「自然」との関りが欠かせないことを知る・ 7 身の回りにある「季節(行事)の設え」を探してくる。 日本人が行ってきた住まいの工夫には、自然や四季との関りが重要であったことを理解する。 理科・国語の学習とのつながり 自分の生活をどのように工夫するのかを考える。 次時へ
		